

講演

長谷川三香

Mika HASEGAWA
松野藝文館代表



能を描く(えがく)

松野奏風と秀世の作品について

2025. 4 月 26 日(土)10:00-11:30 当館研修室

能画家松野奏風の外孫。東京出身。高校演劇部の活動を通じ舞台演劇に関心を抱くも、学業では私大の外国語学部でドイツ語学を学ぶ。卒業後、ドイツ系一般企業の秘書など、語学を生かした職に就き、異文化交流の中で日本文化の魅力に目覚めた。叔父秀世のお供だった観能に積極的に通うようになり、秀世急逝後の2010年、親族による松野藝文館設立にあたって代表となる。千葉県四街道市にある同館での常設展示や企画のほか、『能舞台の世界』(2018年勉誠出版社刊行)への資料提供、執筆協力、「小さな能楽美術館展」(2023年一般社団法人「松の会」主催)への出展協力など、能楽の魅力の発信を模索する。

ギャラリートーク

外沢照章

Teruaki SOTOZAWA
能面作家



能面の種類と特徴

前半/能面の種類と特徴 後半/モデル面に触れてみよう

2025. 5 月 3 日(土)10:00-11:40 当館研修室・展示室

東京・蒲田に生まれ、建具職人の父親のもとで木に親しみ、ノコギリやノミなどの道具を譲り受ける。電子機器開発の技術者として勤務していた42歳のとき、面打ちの指導を受ける。『別冊太陽』の表紙に掲載されていた能面に魅せられ、1987年「面匠会」に入門し鎌田芳雲に師事、1988-2002年東京、横浜を中心に作品を発表する。2003年能舞台のある小樽に惹かれて移住。「旧岡崎家能舞台を生かす会」主催の「小樽能楽講座<能面を打つ>」(2009)、「能を楽しもうプロジェクト」(2010)、「小樽・能楽・歴史展」に加わり、能楽の普及に貢献。Webサイト・ブログ「能面ギャラリー日記」<http://kitutukione.blog97.fc2.com/>

能舞台の華

能画—松野奏風・松野秀世と 能面—外沢照章の世界

より深く知るための関連事業・出演者

ワークショップ

藤井秋雅

Syuga FUJII
宝生流能楽師



謡・仕舞体験 **無料**

主催/旧岡崎家能舞台を生かす会
お申込み/tel 090-8904-5665(遠藤)ショートメール可
mail kagamiita@otaru.net

2025. 5 月 25 日(日)10:30-11:30 小樽市公会堂

東京に生まれる。シテ方宝生流藤井雅之の長男。19世宗家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。公益社団法人宝生会、公益社団法人能楽協会会員。東京藝術大学音楽学部卒業。1995年「鞍馬天狗」花見で初舞台を踏み、2015年「田村」で初シテを勤める。宝生流の定例公演、関東近郊での催し、北海道・大阪・名古屋・福岡・新潟等全国の定期公演に出演。中高・音楽大学では能楽の授業や公開講座を、文化庁主催の学校巡回公演事業では日本全国の児童・学生への公演・ワークショップを行う。

*本ワークショップのみ、会場・お申込みが異なります。ご注意ください。
小樽市公会堂/〒047-0024 小樽市花園5丁目2-1

朗読

堀きよ美

Kiyomi HORI
女優



源氏物語<葵上>

角田光代訳『源氏物語 上』河出書房新社より
薩摩琵琶演奏/黒田 拓

2025. 6 月 7 日(土)14:00-15:30 当館展示室

室蘭出身。小学生の時、『マッチ売りの少女』の主演がきっかけで「演じる」ことに強い関心を抱く。やがて、社会人劇団で看板女優を務め、主演した「青森県のせむし男/寺山修司・作」で女優としての地位を築く。2017年に独立。2021年「ラボラボラ」代表となり、主に演劇を通じてアイヌ民族文化を発信。2022年にはソウル遠征。同年、「五月の会」を立ち上げ、井上ひさし作「化粧/二幕」を独演。翌年、本格派時代劇の主演、花魁役に挑み、迫真の演技が評価される。薩摩琵琶奏者 黒田拓氏とは演劇公演を含めると10数年の共演歴を重ね、北海道立文学館所属の古典朗読講師他、各所で様々な朗読会を催している。